

## サポート・カードの配布について

発達障害を抱える子ども達にとって思春期・青年期は人間関係が複雑化し、学校生活をはじめとして様々な生活場面で「特性」による生きづらさが顕在化したり、進学や就職などの現実的な課題に直面し将来に不安を感じたりすることが多い時期とされます。また、多感なこの時期は親子の関係不調が生じやすい時期でもあります。

そこで、高松圏域自立支援協議会では、思春期・青年期の子ども達やそのご家族が抱える様々な困りごとについて、その改善に向けた具体的な助言を受けることが可能な専門の相談窓口を紹介するサポート・カードを作成いたしました。このカードには、特性への気づきが十分ではない、または困難を自覚していないが学習や生活面に課題をかかえている子ども達やそのご家族も含め、医学的診断の有無にかかわらず、こうした生活上の困難の背景にある「特性」を専門的な観点から整理し解決策を考えていくための相談や支援を実施している公的な機関が、困りごとの種別ごとにまとめられています。

私たちは、家庭での困難解決に向けたご努力や学校での本人に寄り添った手厚いご支援に、ここで紹介している相談窓口からの各種の情報提供やご本人の特性・ご家庭の状況に応じた様々なサポートが加わることで、小さなつまずきが深刻化することを未然に防ぎ、適切な進路選択が可能となり、その後の生活の改善も図れるのではないかと考えています。

つきましては、是非このカードならびにそのリンク先となる各種相談窓口に関する情報をご高覧いただき、進路説明会や個別面談時の配布等にご活用いただければ幸いです。

高松圏域自立支援協議会

発達障害部会

## 【サポート・カード活用のねらい】

### ○二次障害の未然防止

本人や家族の困り感が深刻化する前に専門機関の活用を促し、ひきこもりや問題行動などの二次的な障害を未然に防ぐ。

### ○多様な担い手による支援の強化

家庭や学校での支援に行き詰まった場合に備え、専門機関の利用を促すことで、卒業後のサポートも含め多角的な支援体制を築いておく。

### ○保護者の孤立を防ぐ

「うちの子は病気ではない」と支援を受けることをためらう保護者に対し、「子どもとのかかわり方の悩み」について専門的な助言を受けることを提案することで、保護者の孤立を防ぐ。

## 【配布時の留意点】

○発達障害についての認識が本人・保護者ともに十分ではない所謂グレーゾーンにあるケースも多いことから、「発達障害の相談窓口」と直接的な表現で伝えるよりも「子どもの個性や特性をきちんと理解し、進路や今後の生活について助言をもらうための窓口」というようなソフトな表現を用いた方が、抵抗感がすくないと思われます。

○発達障害が疑われる特定の生徒に限定せず進路説明会等の機会を活用し、他の配布資料とともに配布するなどして、「困りごとを感じているすべての家庭に広く専門機関の利用について情報提供する」というスタンスを基本とすることが望ましいと思われます。(個別面談時の情報提供を妨げるものではありません)

○このカードは配布時に即活用ということのみならず、卒業後本人や家族が困り感をいなく困難な状況に陥った際に思い出し手に取っていただくことも想定しています。「今すぐに相談ということではなくても、困ったときにこういう相談先があることを知っておいてほしい」というようなメッセージを添えて配布していただけると大変ありがたく思います。